

経営比較分析表（平成30年度決算）

神奈川県 清川村

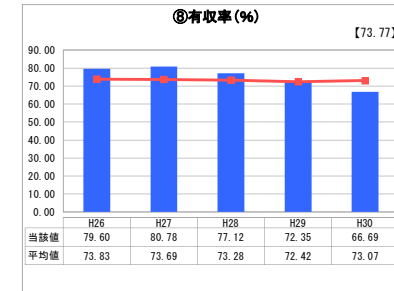
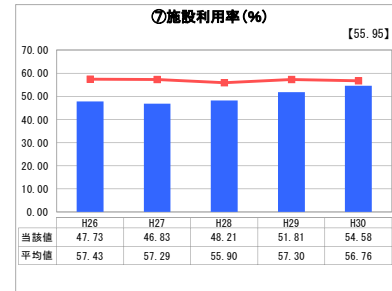
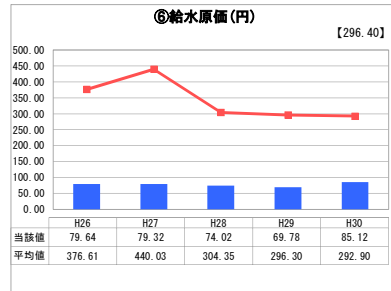
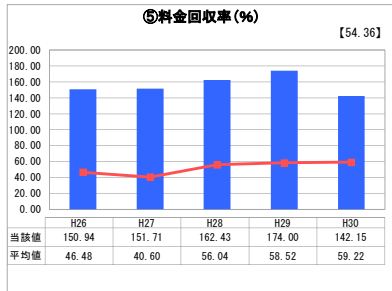
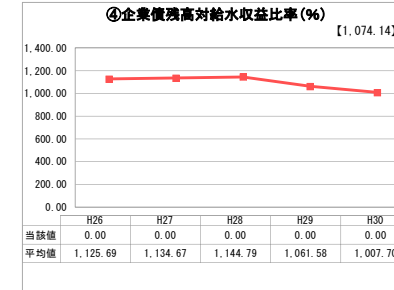
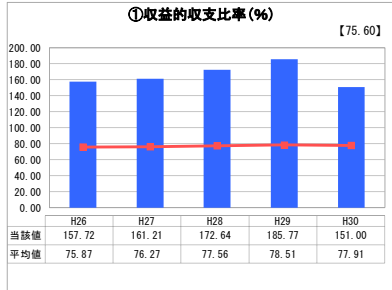
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	水道事業	簡易水道事業	D3	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)	
-	該当数値なし	97.70	1,663	

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
2,981	71.24	41.84
現在給水人口(人)	給水区域面積(km ²)	給水人口密度(人/km ²)
2,891	4.50	642.44

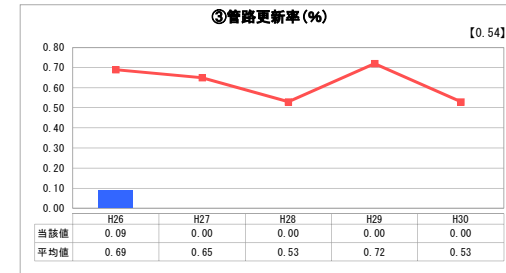
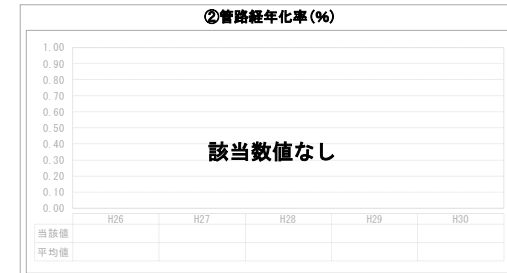
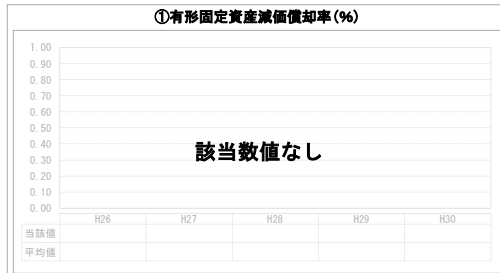
グラフ凡例

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成30年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率及び料金回収率は、指標の100%を超え、平均値を大幅に上回るとともに、企業債の残高もないことから、健全な経営状況であると考えられます。

また、給水原価は、経常経費の節減を図り、平均値の3分の1程度ですが、施設利用率及び有収率は平均値を下回り、特に有収率は年々減少している状況にあるため、漏水調査及び修繕により有収率の改善を図り、効率性の向上に努める必要があります。

2. 老朽化の状況について

現有施設及び設備は、整備後20～30年が経過して老朽化が進んでいるため、中長期的な財政計画を踏まえ、第1期更新事業計画（H19～H28）では、主に電気計装設備等の更新工事を実施しており、引き続き平成28年度に策定した第2期更新事業計画（H29～R8）に基づき、主に機械設備及び配水管の更新工事を計画的に実施していく必要があります。

全体総括

近年、各家庭において節水型家電の普及、また、人口の減少に伴い、年々水道使用量の低減が進んでいます。一方、施設、設備及び管路の老朽化により、維持管理経費や更新経費は増加傾向となっていることから、財政調整基金の推移により、料金改正を検討していく必要があります。